



ひろげよう! まちづくりの輪 ～手と手をつなぐ大家族リレー～



まちづくり協議会で汗を流す方の、活動内容やまちづくりへの想いなどを紹介します。

高取まち協
神谷 俊夫さんから
バトンタッチ!

南部まち協 ○

- 都築 英補さん(防災・防犯Gリーダー)
- 福島伸一郎さん(防災・防犯Gサブリーダー)
- 水野 輝久さん(防災・防犯Gサブリーダー)



▲左から福島さん、都築さん、水野さん

「大災害が起きたとき、私たちにできることは何か」「3.11」を教訓に、災害時について考えようと、7月24日～26日、南部まちづくり協議会と港キッズクラブの共同企画により、港小学校児童と地域住民計43人が宮城県石巻市を訪問し、現地の子どもたちとの交流や被災地の現地視察を行いました。

◆きっかけは、地域の方からの木工機械寄贈からできたご縁だとか。《話:福島さん》

木工機械を被災地に寄付したい方がいると、町内会長である私へ相談がありました。宮城県に2年ほど住んでいた縁もあり、組合員の皆さんが多く被災された石巻建具家具協同組合に連絡したところ、すぐにでも欲しいとのことで、そこから石巻市との縁ができました。町内会だけではできないことが、まち協と協力して、不可能が可能になることが多くあるように思います。



▲木工機械の寄贈へ出発

◆今回、どのような想いから、子どもたちを連れての石巻市訪問に至ったのでしょうか? 《話:都築さん》

子どもたちに、津波のすごさ、被災者の生活を見て、これが私たちの町にも起こり得るということを知ってほしいと思いました。港小と、同じ呼び名の石巻市の湊小の子どもたちの環境に置き換えてみてほしい。親兄弟、友達を亡くした子、家を無くした子。自分たちの学校も使えず、スクールバスに乗り、他の中学校で勉強している。そんな子どもたちに、少しでも元気をおすそ分けしたいと思いました。港小の子どもたちが、石巻市で見たこと、聞いたことを忘れずに、今後に生かしてほしいという想いです。

◆石巻市訪問を終えていかがでしたか? 《話:水野さん》

2泊3日往復1,600kmの強行日程でしたが、実施して良かったと思います。「テレビでは復旧していると言っていたが、現場は全然復旧していない。」「どんな顔で会って、どんな言葉がかけられるのか。」この言葉が、現地を見た皆の気持ちを代表していると思います。これが終わりではなく、この企画はここから始まるような気がします。



▲プレゼント用鬼面瓦作りと湊小の生徒と一緒に作るための練習

◆皆さんの活動の原動力、今後の抱負などを教えてください!

【都築さん】 私たちは、現役で働いていたころと、気力は何も変わっておらず、それ以上に、色々な特技を持った人が集まった相乗効果で、何倍もの力を発揮し、考えたことは即座に汗水惜しまず、やることは自分たちでやっています。大工、左官、農作業、料理研究、先生役…こうした方法で節約する事業の進め方は、これからも変わらないでしょう。

【福島さん】 私1人では何もできません。同じ考えを持つ人の協力が何よりの力です。防災はこれで良いということはありません。私にできることは皆さんの協力を得て、何でもやっていきたいと思しますので、ご協力をお願いします。

【水野さん】 おとぎ話の「桃太郎」ではありませんが、犬の「恩」、猿の「知恵」、雉の「勇氣」に、これまで恵まれていたと思います。これからは宝島から持ち帰った「宝物」をさまざまな方法で還元しながら、もっともっと人生を楽しみたいと思います。



▲被災地を視察

衣浦定住自立圏 市民活動情報サイト「かりや衣浦つながるネット」

高浜市では、刈谷市・知立市・東浦町との連携により、市民活動情報サイト「かりや衣浦つながるネット」を4月より、Web公開し、高浜市の専用ページが設けられています。市民活動やボランティア活動の情報を共有することで、人と人、人と活動をつなぎ、市民活動の活性化を図りたいと考えています。

現在、37の団体が登録し、イベント・ボランティア情報を発信していますので、皆さんご覧ください。また、市民活動団体の皆さんは、ぜひ登録をお願いします。

ホームページアドレス <http://tsunagaru.genki365.net/>
問合せ先 市役所地域政策グループ ☎52-1111 (内線366)

